

NISHINOMIYA EBISU

西宮 えびす

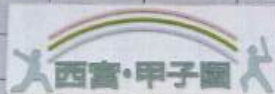
阪神甲子園球場

令和六年夏号

えびすさまと西宮
発展の歴史

HANSHIN KOSHUEN STADIUM

100TH ANNIV



KOSHUEN 100TH ANNIV

KOSHUEN 100TH ANNIV

えびすさまと西宮 発展の歴史



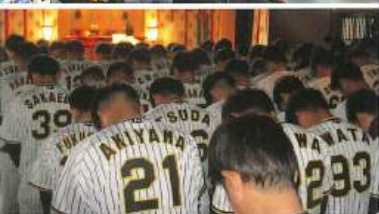
甲子園球場付近(1984年)にのみやデジタルアーカイブより

●西宮神社と甲子園球場百周年

西 宮市といえば当社、甲子園球場、灘・西宮の酒を真つ先に思い浮かべることと思います。

西宮神社と甲子園球場には深い繋がりがあり、今より遡ること百年前、大正十三年(一九二四)十日えびす、阪神電鉄専務の三崎省三氏は当社に訪れた際、境内に掲げられていた「大正十三年甲子之歳」と記された幕、看板を見て十干十二支の先頭にあらる「甲子」の歳で非常に縁起が良いということ、ここよりヒントを得て、前年に建設を決定していた野球場の名前を「甲子園球場」(当初は甲子園大運動場)と名付けました。もし三崎氏が西宮神社に参拝に訪れていなければ別の名前になっていたかもしれません。

同年三月に地鎮祭を行い、突貫工事で進められ七月三十一日に竣工、翌八月一日に開場されました。以降は存じの通りプロ野球阪神タイガースの本拠地、また春夏の全国高校野球選手権の会場として全国各地より多数の来場者があり、本年めでたく百周年を迎えます。



当社には昭和三十七年のリーグ優勝以来、シーズン前に阪神タイガースの役員、監督、選手一同揃って必勝祈願にお参りされております。本年は三月七日、球団歌「六甲おろし」が響き渡る境内を、三百名以上のファンや報道陣が集まる中、選手全員が揃ってユニフォーム姿で参進。本殿御屋根葺き替え工事の為、祈祷殿にて必勝祈願祭が斎行されました。今期の必勝と球団の繁栄を祈る祝詞を奏上、また岡田監督には、絵馬も奉納して頂き、インタビューでは、「連覇に向かってシーズン優勝を勝ち抜く、ただそれだけ」との事。

昨年は、三十八年ぶりに見事リーグ優勝、日本一を達成の後、十一月にはお礼参りにもお越しになりました。今年も阪神タイガースの優勝と今後の益々のご活躍をお祈り致します。

本年には阪神甲子園球場開場百周年、西宮駅開業百五十周年、令和七年四月二日には西宮市が市制施行百年を迎え、おめでとうございます。これが重なります。えびすさまに見守られてきた西宮市がこれからも益々繁栄していくことを願います。



国鉄西宮駅（昭和30年代）にしのみやデジタルアーカイブより



現在のJR西宮駅

● 鉄道開通と西宮への参拝

J

R 西宮駅は大阪と神戸を繋ぐ西宮市で主要な駅のひとつで、この度開業百五十周年を迎えます。西宮は当社の門前町、また西国街道の宿場町として栄え、人口も多く官設の鉄道、大阪駅から神戸駅の間を繋ぐ路線現在はJR神戸線の開通の際、明治七年（一八七四）「西ノ宮駅」（平成十九年（二〇〇七）に「西宮駅」に改称）が開業しました。

この路線は日本で二番目に作られ、駅としては関西では最も古い駅のひとつです。



西宮駅の完成により物流、人の流れが大きく変わりました。

かつて遠方からの当社への経路は西国街道を通る徒歩、海路が主でしたが、鉄道の整備により利便性が大きく向上し、参拝者数も飛躍的に伸びました。また全国各地の崇敬講の方の本社参り、またえびすさまの御霊分けを望む方々が増加、例年十二月のえびす講のおまつりに数十万人の参拝がある群馬・桐生西宮神社や岐阜・中津川西宮神社等もこの時期以降にご分霊され、えびすさまのご神徳がより各地に広がっていききました。

西宮駅の開業は信仰、経済の面で大きく西宮市の発展に寄与しました。



けんちやしき

献茶式



献

茶とは抹茶を点でて神仏に供えるものです。献茶式では濃茶と薄茶の二盃の茶を点でて供え、江戸時代までは貴人に茶を献じることを称して献茶と言いましたが、明治時代以降は家元宗匠が神前などに茶を奉じることとされました。

当社の献茶式は、裏千家十五代鵬雲斎千玄室大宗匠の誕生日に合わせ執り行われているもので、昭和三十六年に戦災から本殿が復興したことを祝って翌三十七年大宗匠の父・十四代家元淡々斎とともに献茶式を奉仕したことに始まります。

大宗匠が家元を襲名した後、昭和四十二年から再び献茶式が執り行われ、昭和四十六年からは誕生日に合わせての斎行となっています。

式の中では宮司が併せて大宗匠の誕生を祝う祭詞を奏上し、令和五年には満百歳の記念の式を執り行い、濃茶と薄茶を謹点し、ご祭神に捧げ、玉串を奉りて拝礼されました。

式には毎年裏千家淡交会の各支部より大勢の方々が参列されます。



● 裏千家 十五代鵬雲斎千玄室 大宗匠から

えびす様をお祀りする総本社である西宮神社の新社殿竣工を記念した初めての献茶式(昭和三十七年)を裏千家が御奉仕することになりました折、十四代・淡々齋に随行し若宗匠として炭手前の御奉仕をさせて戴いたことを懐かしく思います。家元継承後は誕生日の献茶式が恒例となり、五十年以上御奉仕させて戴きました。

昨年には百歳の節目に御奉仕いたしました時、御神徳の有り難さと共に、よく長く御奉仕が出来たと、改めて大神様に御礼申しました。これからも一盃からの幸せを未来に繋ぎ、平和な世の中になることを願うと共に、西宮神社の御神徳が世界中に広がりますことを念じております。

利休居士第15代 前家元 鵬雲斎 千玄室

大正12年、京都府生まれ。同志社大学卒業後、ハワイ大学修学、韓国・中央大学大学院博士課程修了。昭和24年、大徳寺管長後藤瑞巖老師のもとで修行得度、齋号「鵬雲斎」安名「玄秀宗興」を受け若宗匠となる。昭和39年10月、裏千家第15代家元となり今日庵庵主として宗室を襲名。平成14年12月、嫡男千 宗之に家元を譲座し、汎叟千 玄室大宗匠。(哲学博士、文学博士)

令和六年は坐忘齋千宗室家元奉仕により献茶式が執り行われました。毎年献茶式に併せ境内ではお茶席が設けられ終日賑わいを呈します。



昭和37年当時 千宗興若宗匠(現・千玄室大宗匠) 献炭御奉仕

文化研究所だより (十七)

西宮神社の遷宮

令和六年二月三十日の夜、西宮神社本殿に祀られる四柱のご神体が、西側の御輿殿に設けられた仮本殿に遷られました。これは令和の本殿御屋根葺替事業に伴う「仮殿遷座祭」として斎行され、神職と大勢の参列者が神様の「お引越し」を静かに見守りました。

西宮神社の歴代神主が書き綴ってきた「御社用日記」を紐解くと、このような「お引越し」は江戸時代にもありました。記録上確認できる事例は元禄・享保・延享寛政・天保の五回で、当時は「遷宮」と呼ばれました。但しこれは西宮本社の変宮であり、西宮神主が管轄していた広田神社や南宮社、摂末社等を含めるともう少し増えます。なお本殿から仮の本殿に遷ることを「仮遷宮(または下遷宮)」、仮殿から本殿に遷ることを「正遷宮(上遷宮)」と称しています。

さて遷宮が行われる主な理由は、屋根の葺き替えを含めた社殿の修葺です。ただその費用はすべて神社が工面する必要があるました。西宮神社は毎年安定的な収入をもたらす社領をわずかしか所存しておらず、財源の大部分はさい銭やお札代、祈祷料、諸寄進などでした。ちなみに江戸幕府は修復費用を自ら調達させるため、全国各地で御神影札を頒布する者

(えびす願人)から役銭を徴収する特権を神社に与えましたが、その収入もさほど多くはなく、莫大な費用が掛かる修復は神社にとって頭の痛い問題でした。

そうした状況を打開する案として浮上したのが「御開帳」です。

西宮神社の御開帳については当社報平成二十八年新春号で取り上げましたが(西宮神社公式サイトで公開)、享保七年(七二二)に第一回目が斎行されています。この時は寛文期の幕府による復興造営から五十年を経て、いよいよ破損が目立ってきた西宮神社・南宮社の本格的な修繕とともに、大きな水害に見舞われた広田神社の遷宮(移転)の費用捻出が目的でした。但し開帳の収益は神社が期待したほどではなく、西宮町や氏子に追加の寄進を依頼する状況でした。実際、西宮神社・南宮社の修復は翌年末に完了しましたが、広田神社の遷宮は同十二年(七二七)までかかりました。しかしながら延享期と寛政期の西宮神社遷宮の前にも開帳が催されており、資金獲得の有効な手段と考えられていたようです。

では遷宮当日はどのような光景が見られたのでしょうか。「西宮神社文書」第一巻(清文堂出版刊)に収録された寛政二年(七九〇)の(西宮神社正遷宮の史料を紐解くと、遷宮に関する神事とご神体に供奉する行列の次第が記されています。

まず神事に関しては、仮殿で音楽が奏され、中臣・神楽・御神酒献上等が行われたあと、「警蹕」の声

のなか本殿に向けての神幸が行われます。

神幸に供奉する行列は「御薦・御桃燈・御弓・御鈴・御地布」の役目の者が先導し、「音楽方」を挟んで「切麻散米・太玉串・御幣・御幕」が続きます。そしてご神体を守護する神主と神職等の後ろに「蔭燈・御幕・御神楽・御膳唐櫃・警固・御篝火・御蠟燭消・神供調達・御飯殿御番・御本殿御番・蔭燈・御神燈」が付き従います。紙幅の都合上具体的な役割の説明は省略しますが、五十名近くが参加する盛大な行列でした。

その後、本殿に鎮座したご神体には神燈や神供・神酒の献上や、奉幣・祝詞・中臣祓の奉説が執行され、正遷宮の神事はすべて終了します。

興味深いのは、供奉行列のほとんどが神社関係者の一族で占められているのに対し、同じ時期に行われた南宮社遷宮の行列には屋号を持つ西宮町人が数十名参加している点です。その理由を説明するのは難しいですが、同じ境内に鎮座するとはいえ西宮神社と南宮社では、神社側や氏子達の意識に大きな差があったと考えられます。

以上、江戸時代の西宮神社の遷宮を紹介しましたが、令和の正遷宮は本年十一月に斎行する予定です。崇敬の方々の思いがこもった銅板葺きの屋根の本殿・拝殿は一体どのような偉容を見せてくれるのでしょうか。仮本殿にいらっしやるえびす様らとともに、私たちも楽しみに待ちたいと思います。

(西宮神社文化研究所主任研究員 戸田靖久)



本殿改修工事に伴う 参拝等のお知らせ

(令和6年1月31日～11月末頃)



この度、本殿の御屋根葺き替え工事に伴い、
本殿西側の仮殿に神様をご遷座致しました。

工事期間中(令和6年1月31日～11月末頃)は、仮殿にてお参り下さい。
また各祭典(末社祭を除く)・朝拝(万度祓)も仮殿にて行います。

旬祭 ご参列、 とおかし頒布について

- 毎月の旬祭の参列席は、100席となっております。
また毎月10日のおかしの頒布は100個限定となりますのでご了承下さい。

本えびず講社 正式参拝について

- 本えびず講社の正式参拝の受付・奉仕は仮殿にて行います。
- 受付時間 9:00～15:00
※15:00～16:30、また祭典等は祈禱殿にて受付・奉仕致します。

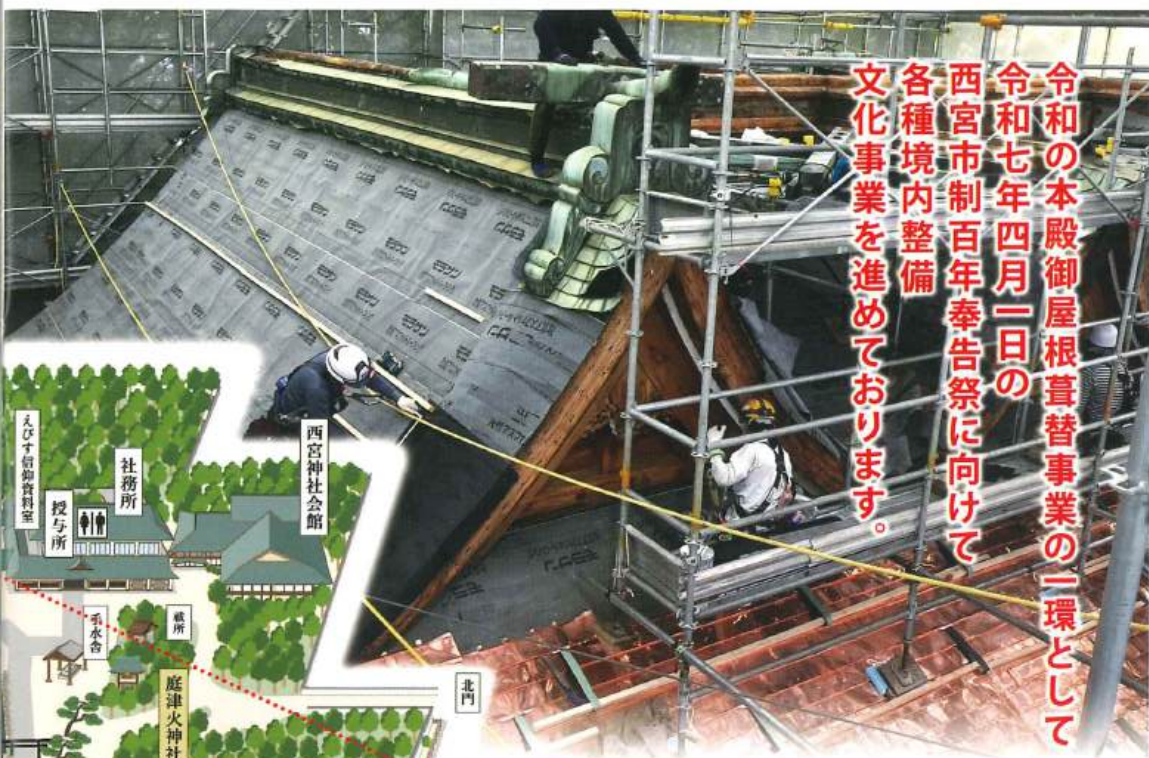
日供講社 誕生奉告祭の ご参列について

- 日供講社の誕生奉告祭は仮殿にてご奉仕致します。
お越し頂きましたらご案内まで社務所でお待ち下さい。

ご参拝の皆様には、何卒ご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和の本殿御屋根葺替事業進捗報告

令和の本殿御屋根葺替事業の一環として
令和七年四月二日の
西宮市制百年奉告祭に向けて
各種境内整備
文化事業を進めております。



● 本殿工事進捗状況

復興から約60年が経過し、本殿・拝殿御屋根の銅板老朽化など各所で修繕が必要となっていた為、御屋根銅板葺き替えを中心に本殿木部の洗浄、本殿大床・浜床修繕、拝殿壁塗り直し、傷んだ扉修繕、飾り金具の一部洗浄等の工事を実施しております。

お蔭をもちまして、銅板のご奉賛は目標枚数に達しましたので終了となり現在、張り替え作業を行っております。ご奉賛賜りました皆様には厚く御礼申し上げます。

奉賛事業の協賛金は、引き続き募集しておりますので、皆様のご支援ご協力のほど何卒宜しくお願い致します。

● 飾樽舎改修工事

令和5年11月1日に灘五郷の酒造会社を中心に全国から奉納頂いた酒樽を飾る飾樽舎改修工事が竣工しました。改修前の建物は昭和45年に建てられたもので53年ぶりに装い新たになりました。近日中に飾樽舎の前に灘五郷・宮水などの説明板を設置予定となっております。



改修工事が完了した飾樽舎



補修工事が完了した神池参道

● 阪神・淡路大震災被災絵馬修復作業

阪神・淡路大震災で倒壊するまでは本殿西側に、宝暦13年(1763)に建てられた絵馬殿がありました。江戸時代から昭和にかけて奉納された約50枚の絵馬が飾られておりましたが、平成7年に被災した際に大半の絵馬も壊れてしまいました。

令和7年には阪神・淡路大震災発災30年を迎えるにあたり、被災絵馬の中から宝暦元年(1751)に尼崎藩主松平忠名が武運長久祈願で奉納した「しんめ とわり そえず神馬舎人添図」を修復作業中です。令和6年10月に修復完了予定となっております。



尼崎藩主松平忠名奉納絵馬(震災前)



改築工事が完了した駐車場トイレ



改築工事が完了した青年の家

● 駐車場トイレ・青年の家改築工事

令和5年12月10日に駐車場トイレと氏子青年会集会所である青年の家の改築工事が竣工しました。改築前の駐車場トイレ・青年の家は昭和49年に建設されたもので、参拝者の方に気持ちよく参拝してもらうために約50年ぶりに改築を行いました。

● 神池参道補修工事

神池参道は経年劣化による剥落が各所で発生していましたので、令和4年7月下旬より補修工事を行い、令和4年9月1日に完成の清祓式を執り行いました。三島全ての参道は、御影石の乱張りにし、それぞれの島には、鯛が隠れています。ご参拝の際には是非探してみてください。



今年も開催！
フォトコンテストの
季節が
やってきました！！

第4回
えびすフォトコンテスト
テーマ
「わが町の神社」
応募期間 / 令和6年6月1日(土)～8月31日(土)まで

第4回 えびすフォトコンテスト
テーマ「わが町の神社」

当社では、神社・えびすさまを身近に感じ、親しみを持って頂く為、また魅力を再発見して頂く為「第4回えびすフォトコンテスト」を開催します。今回のテーマは「わが町の神社」。
応募写真は、美しい境内の風景、活気あふれるお祭りの様子、家族の笑顔が見られる人生儀礼など、「神社」を連想するものであれば何でも自由です。「日本」を感じる美しい瞬間を探しに是非お近くの神社に足を運んで下さい！
たくさんのご応募をお待ちしております。

応募資格	どなたでもご応募頂けます。 (日本在住の方に限る)
応募期間	令和6年6月1日(土)～ 令和6年8月31日(土)まで
応募方法	Instagramへの投稿、 現像写真の送付 ※応募写真には、撮影した神社名を記載して下さい。 ※人物・動物・風景・構造物などジャンルは問いません。
受賞発表	令和6年10月1日(火) 当社公式ホームページにて発表致します。

・主催 西宮神社
・協賛 いぬづか写真室、(株)シュゼット・ホールディングス、
辰馬本家酒造(株)、長崎写真場、阪神米穀(株)

※詳細は当社公式ホームページをご覧ください。
<https://nishinomiya-ebisu.com>

『百太夫神社文化芸術講演会』

境内に鎮まります百太夫神社は、かつて人形操りにてえびすさまのご神徳を広めた傀儡師の祖先をお祀りしています。その百太夫神社の神様のご神徳の宣揚を図るべく令和六年三月二十三日(土)に五年ぶりに百太夫神社文化芸術講演会を開催致しました。



第三回目の講師には、料理研究家としてテレビ・著書など幅広い分野で活躍されている「おいしいもの研究所」代表の土井善晴さんをお招きし、食と文化をテーマにした「純粋料理」という演題でご講演いただきました。



講演前には仮殿にて正式参拝を執り行い、引き続き百太夫神社を参拝。土井さんには芸能上達の扇子と素敵な絵馬を奉納頂きました。午後二時より講演会が始まり、土井さんの様々な経験や視点からお話をいただき、食への知識や興味が深められました。約三百名と大勢の方が参加され、講演会は大変賑わいました。



土井さんに奉納頂いた絵馬は社務所ロビーで展示しています。

第11回 えびすの森 春休み子ども観察会

境内のえびすの森は、兵庫県の天然記念物に指定されている貴重な森です。この市街地に残された貴重な自然を保全し、後世に残していく試みの一環として「えびすの森 春休み子ども観察会」が令和6年3月24日(日)に開催されました。



今回は12名の子どもたちにご参加頂きました。神戸大学農学部教授の石井先生、(株)深秀園樹木医の阪上先生の指導のもと、普段立ち入ることの出来ない「えびすの森」に実際に入り、樹木の観察や葉の採取などを行い、採取した葉を使い、神経衰弱やかるた等のゲームで遊びました。

学校・学年問わず、皆さん楽しんで頂き、自然の大切さも学ぶことが出来ました。



『子ども相撲大会参加者募集』

【競技方法】年齢別に分かれてのトーナメント戦
 【実施日時】令和6年7月7日(日)
 幼稚園・保育園の部/午前9時開始
 小学生の部/午後1時開始
 【応募資格】●一般の部
 幼稚園・保育園児(男子・女子)
 小学校1～6年生(男子・女子)
 ●経験者の部
 小学校1～6年生(男子)
 【応募方法】社務所受付にて
 申込用紙をご用意しております。
 (6月28日締切り)



え

あらかた
 びすさまの荒魂を祀る沖
 恵美酒神社。毎年例祭日
 (7月10日)直前の日曜日
 にお子様の健やかな成長を願
 う「子ども相撲」を奉納致し
 ます。

コロナ禍・雨天等で長らく
 中止をしており、本年は5年ぶ
 りの開催となります。

幼稚園から小学生まで男
 女問わず募集しておりますの
 で、皆様のご参加お待ちしております。



※当日雨天の場合は中止致します。

西宮えびす

令和六年夏号(通巻第六十一号) 令和六年六月一日 発行



こんどの七五三は しっかりオシャレして えびすさまにお参りしましょ♪

衣装・お着付け・大切なお祝いの一日は西宮神社会館にてすべておまかせ。

七五三パック
 ¥38,000

貸衣装・着付
 写真(一式)

衣装・着付パック
 ¥25,000

お母様のヘアセット・着付・スナップ写真も承ります。

●境内ロケーションプラン 27,500円

●六栄堂ロケーションプラン 37,400円

七五三衣装の展示ご予約会

6/29(土)・30(日) 7/6(土)・7(日)

9/14(土)・15(日) 10/12(土)・13(日)

受付開始:令和6年6月1日(土)から

info@jinjakaikan.com 西宮神社会館 ☎(0798)23-3311

西宮神社
 公式ホームページで最新情報を
 公式Instagramも開設!
 ご覧下さい。



西宮神社
 公式サイト



西宮神社
 公式Instagram

西宮神社 公式サイト 検索
<https://nishinomiya-ebisu.com>

十一月末に本殿の御屋根葺き替えを
 終え、装い新たになった暁には参拝の
 後、併せて市内の各名所を散策されて
 はいかがでしょうか。

約四十八万人の人々が暮らし、毎年
 約千二百万人の観光客が訪れる西宮市
 は、令和五年には国土交通省近畿運輸
 局が設置している関西観光まちづくり
 アドバイザリー会議で重点支援地域に
 選ばれ、観光まちづくりにも力を入れ
 ています。

また令和七年四月一日には西宮市が
 市制施行より百年の嘉節を迎えます。
 約四十八万人の人々が暮らし、毎年
 約千二百万人の観光客が訪れる西宮市
 は、令和五年には国土交通省近畿運輸
 局が設置している関西観光まちづくり
 アドバイザリー会議で重点支援地域に
 選ばれ、観光まちづくりにも力を入れ
 ています。

編集室より



本年、阪神甲子園球場開場百周年、西
 宮駅開業百五十周年の嘉節を迎えら
 れ、誠におめでたくお祝い申し上げます。
 開場・開業してより様々な面で西宮
 の発展に大きく寄与されてきました。